

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 1/3

第1問

5 10 15 20 25 30

1970年代には資本主義陣営の途上国の一部で開発独裁下の工業化が進み、東アジアの韓国や台湾はアジアニーズとして経済が成長していった。韓国では朴正熙暗殺を機に光州事件が起こり、民主化運動は弾圧されたが、その後の民主化の先駆けとなり、台湾でも民主化が進んだ。一方中国では文化大革命が収束し、鄧小平のもと市場経済への転換を図る改革開放政策が行われたが共産党独裁体制は維持され、経済が停滞した北朝鮮でも独裁体制が存続した。中東では、エジプトは対立が続いていたイスラエルとの和平によりシナイ半島の返還を実現したが、アラブ諸国の反発で盟主の地位を失った。一方、ホメイニにより親米政権が打倒されシーア派のイラン=イスラーム共和国が成立すると、スンナ派諸国の支持でイラクのサダム=フセインはイラン=イラク戦争を起こした。イラクの存在感は高まったが、この間のイスラーム復興運動の高揚、シーア派とスンナ派の対立の激化、イラクの財政悪化は、1990年代以降の中東の混乱の背景となった。中米地域では、ニカラグアやグレナダに左派政権が成立したが、アメリカは後者を打倒するなど干渉を強め、各地で内戦が勃発した。しかし混乱を乗り越える中で中米諸国の民主化とアメリカからの政治的自立が進んだ。南米でも、アルゼンチンがイギリスとのフォークランド紛争に敗北して軍事政権が崩壊し、民主化の契機となった。またのちの地域協力の動きも起こった。

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 2/3

第2問

5 10 15 20 25 30

問(1)

(a) イクター制

軍人に対して、従来の俸給にかわって国家が指定する分与地の徴税権を与え、それに応じて軍事奉仕を義務づけた制度であった。

5 (b) カピチュレーション

帝国内のヨーロッパ人の居住の安全や通商の自由を保障したが、治外法権などの特権はのちに列強の不平等条約の口実となった。

問(2)

10 (a) 支配階級を統制するために、その等級に応じて給与を与え維持すべき騎兵・騎馬数を定めた官僚制度であった。

(b) ジズヤ復活やヒンドゥー寺院破壊などのイスラーム強硬策が異教徒の反乱を招き、軍人・官僚への給与地不足が財政を悪化させた。

問(3)

15 自由貿易を推進する覇権国家オランダに対抗し、重商主義政策を実施した。イギリスはクロムウェルが航海法でオランダの中継貿易に打撃を与え、英蘭戦争で北米植民地を奪った。フランスはコルベールが王立マニュファクチュアを創設し、保護貿易政策をとった。

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 3/3

第3問

5 10 15 20 25 30

- |    |                      |
|----|----------------------|
| 5  | 問 (1) クレステネス         |
|    | 問 (2) 陳勝             |
|    | 問 (3) コロッセウム (コロッセオ) |
|    | 問 (4) (トマス=) ミュンツァー  |
| 5  | 問 (5) シク教            |
|    | 問 (6) シパーヒー (セポイ)    |
|    | 問 (7) パリ=コミューン       |
|    | 問 (8) 五・三〇運動         |
|    | 問 (9) ホー=チ=ミン        |
| 10 | 問(10) ペレストロイカ        |